

オープンアクセスの神話と真実

社団法人日本動物学会
事務局長
永井 裕子

オープンアクセス

デジタルコンテンツへの障壁なきアクセス

1

(神話)
打倒 商業出版社

(真実)

学会出版者(米国)は、「購読料」が重要。
2005,2008年、NIH Policyへの激しい抵抗

*オープンアクセスは皆を幸福にはしない！

2

(神話)
NIH PolicyはOpen Access Policyだ

(真実)

NIH Policy はOpen Access
Policyではない。

3

NLM Public Access

Society for Scholarly Publishing Annual Meeting May 28, 2008

David Gillikin

Chief, Bibliographic Service Division

National Library of Medicine

National Institutes of Health

Department of Health & Human Services

4

And the point?

Public Access is not Open Access.

Different groups use the phrase “open access”, but may not mean the same thing.

For some publishers, “open access option” is merely free access (author-pays models).

Potential for user misunderstanding, especially regarding reuse issues.

David Gillikin

5

(神話)

NIH Policyは普遍的である

(真実)

医学分野、また米国に限定したPolicyである。

[Http://www.nih.gov/about/NIHoverview.html](http://www.nih.gov/about/NIHoverview.html)

6

(神話)

NIHのPolicyは納税者の権利を守るもので、日本でも、模倣しなければならない。

(真実)

日本人は日本語が母語。英語で書かれた多様な分野の査読済み論文が公開されても、英語圏のような「納税者への還元」にはならず、もし、新たに、ア-カイブのための装置を用意するなら、むしろ「税金の無駄使い」である

7

(神話)

オープンアクセスジャーナルこそが、
ジャーナルの地位を高める

(真実)

オープンアクセスにするだけで、知名度
が上がり、以前より論文が読まれる—と
いうことは今、現在ではいえない。

8

皆様！是非、聴きに行きましょう！

INFOPRO 2008 第4回プロフェッショナル
シンポジウム

11月13日 B会場 会議室2

演題B12 オープンアクセス論文のインパクト-
日本化学会の事例- ○林 和弘

○は会場発表者

(神話)

オープンアクセスは素晴らしい

(真実)

何が素晴らしいのか、よくわ
からない。

10

日本におけるオープンアクセス

NIH 方針を日本版にすると—

- 国が補助をして、得た医学的知見は、
日本国民の健康維持のために重要であるから、
日本語で書かれた医学文献はすべて、
オープンアクセスにすべきだ

11

日本におけるオープンアクセス

RCUK方針をお手本にすると---

研究者は、発表した論文を、適した e-print repository にできるだけ早い時期に、デポジットしなさい。

12

私的な見解

米国は、オープンアクセス運動と NIH Policy が、学会、図書館、NIH で今も微妙にずれを生じているように見える。
英国は、オープンアクセスによる情報の拡大効果を冷静に検証している。
2008 年末には RCUK から、報告書が出るか？

13

オープンアクセスへの正しい理解

○学会としては、機関リポジトリ方針等を含め、学会としての OA は何かを検討する必要がある。

-OA を正確に理解することが重要

14

オープンアクセスの正しい理解

○JISC や RCUK のような組織がない我が国では、リポジトリの運営は、図書館に任せるしか道はない。すでに、税金は投資されている。助成団体は、機関リポジトリ、または個人 web へのデポジットを促すべきである。

15

オープンアクセスの正しい理解

○オープンアクセス(フリーアクセス)が、自らのジャーナルを広く知らしめる—と判断するのは、世界におけるデジタルコンテンツの増大から考えても、すでに難しい時代が到来しているのではないか。

16

オープンアクセスの正しい理解

○ サイトライセンスが何かを理解していない研究者の方々も実際には多い。
Pub Medからジャーナルを辿るとすべて見える(図書館が購入している)ので、ジャーナルはほとんどオープンアクセスだと考える研究者がおいでになる。

(事実)

BioMed Central sold to Springer

(事実)

今回の買収は、Springer が、観念的な改革運動としてではなく、継続的なSTM出版のひとつとして、オープンアクセス出版をみなしているという事実を補強するものである。

Derk Haank

CEO of Springer Science+Business Media

18